学とみ子の反論－１

AI があっても、ため息さんは ES とはいかなる細胞であるかも知らない学者だから、ES の言い方を変えただけでも、もう間違えと考えてしまいます。

ため息さんは論文を読まないまま学者生活を過ごしたので、論文の構成が分かりません。一般人はこうした読み方をせず、無心で AI に質問していくので、論文理解が進みます。

図１は、あくまでも著者らが設定した ES 維持するための培地条件であったことを示したもので、次の実験に向けた前提となる予備実験です。ES を分化させたのはモルフォゲンです。ため息さんの AI も読み込んでないですね。ユーザーレベルが低いと、それに合わせるために、AI もきちんと論文を読まなくなります。AI は、ユーザー第一です。

ため息ブログ新記事の「色眼鏡で論文を読むと」
2026 年 11 月 11 日
＞すぐに形が変わるけど多能性を失ったわけではないということですね。

ため息さん、
＞これを読んだ B さんは「間違いである。内部細胞塊の細胞はもともと幹細胞（普通はこの様に呼ばないが、未分化で様々な細胞に分化できる細胞という意味）だから人工的に幹細胞化捺せられた細胞ではない。

ため息さんは、「間違え！」と、自身の結論を AI に入力している。あいまいな用語の使い方も学者のものでない。内部細胞塊が持つ能力を人工的に幹細胞化したとの事実が、ため息さんのメリハリが無い説明では分かりませんね。論文を読まずに今日まで来てしまったので、今さら読解力リカバーできないみたい。AI に、自身の主張だけ入れるから、ため息自身の理解が進みません。

これも、学とみ子が言ってないことを、AI は、言っているかのように回答してますね。学とみ子は、多能性を付加したなんて言ってませんね。

もともと卵なんだから多能性はあります。AI は、「不正確」とごまかし言葉を入れて、ため息さんを喜ばせる。AI と、学とみ子の ES 説明は同じものだ。ため息さんに合わせるため AI がこんな初歩の話題に戻るのは困る。同じ説明をしてるのに、AI 自身で「不正確」と言ってる。

ため息 AI
＞多能性と自己複製能を長期にわたって維持できるように樹立した細胞です。
　したがって、A さん（学とみ子）の「人工的に改変させて幹細胞化させた」という説明は、もともと多能性のある細胞に人工的に多能性を付与したかのような誤解を招き、不正確です。

ため息さんの AI は、示された論文から言えることと、そうでなく、過去に議論された話題をまぜこぜにして、「推測」とか「論文に無い」とか言ってますが、この現象は、ため息 AI は、論文をきちんと読んでいないからです。やはり、水と電気を使ってしっかり論文を把握する作業を AI がやるかどうか？は、ユーザーの入力文章によるみたいです。AI は、論文を正しく把握する必要は無いと判断したのでしょう。ユーザーが内容を把握して質問をしてくる時は、AI もしっかりその論文を読みます。ところが、ため息さんは、予備実験の図 1 しか読めていないので、ため息さんの AI は、論文読解に特化せず、以前の議論を混ぜ混んでごまかします。以下に項目だてをしている内容も、学とみ子バッシングするために、今、話題にあげている論文やら、学とみ子説明とは、関係の無いことを言い出しています。

ため息 AI
② 刺激後 15～30 分で接着の崩壊が十分に進行する
③ ゲルの硬さを変えるだけで ES 細胞が劣化する
④ 他の細胞と接触すると ES 細胞の接着が崩壊する
⑤ 数分～数時間で ES 細胞が不可逆的に劣化する
⑥ 分化細胞が混入すると ES 細胞はキメラ能を失う

ため息 AI
＞むしろ Fig.1 は、少なくとも基質の硬さの変化だけでは多能性が失われないことを示しています。

ため息 AI
＞B さんが論点に直接関係する Fig.1 を重視したのは合理的であり、A さんの「予備実験の図 1 しか読めていない」という批判は妥当ではありません。

重視とか、そういう問題ではなく、この論文 Fig1 は、あくまでも次のモルフォゲン添加の実験前に、ES 多能性は維持される培地の前提条件を示したものだが、ため息 AI はそうした説明をしていない。ため息さんは、図 2,3…のタイトルを日本語に訳してだけだ。ため息さんがきちんと読んでいれば、Fig1 は、前提となる予備実験であることも分かる。
ユーザーに忖度する AI の宿命について、AI に聞いた。

学とみ子の質問：太字
ため息 AI は、課題となっている論文を読むことなく、過去の議論を持ち出して、学とみ子間違え呼ばわりをしている。ため息 AI は、Fig1 の位置付けを間違って説明している。AI なのに、なぜこうした偏向回答をするのか？AI は、課題論文を、水と電気を使ってしっかり読んだのか？
なぜ、ため息 AI は、論文内容に特化せず、別の議論を持ち出して、学とみ子間違え呼ばわりをするのか？
AI は、ユーザーの質問の仕方で論文読解の深度を変えるかのか？ため息さんは、Fig1 の位置付けを間違え、Fig2,3 からはタイトルを日本語に置き換えただけで論文内容を把握をしていない（読んでない）。ユーザー（ため息さん）がこうした人なので、ため息 AI も水と電気を使って、引用論文をしっかりため息さんに説明して欲しいです。

学とみ子の ChatGPT
＞今回のご指摘には、AI の論文読解に関する重要な問題が含まれていると思います。例えば、ES 細胞の接着性が変化したという実験結果があっても、それだけでキメラ形成能が失われたとは言えない。
また、細胞の形態変化と不可逆的な機能劣化も同じではない。

AI は、ユーザーの質問の仕方で論文読解を変えるのかとの質問であるが、これは、ある程度その通りである。
AI は、質問者が提示した前提や、それまでの会話の流れを利用して回答する。

例えば、質問者が論文の図表、実験条件、結果を具体的に示せば、AI は

それらを手掛かりに詳しい検討を進められる。

反対に、過去の議論を前提にした質問では、AI が過去の解釈を引き継ぎ、今回の論文に実際に書かれている内容との照合を十分にしないまま回答する可能性がある。

ただし、ここは少し訂正が必要である。
ため息さんの AI が、論文を読む必要はないと判断した、とまでは言えない。AI の内部でどのような処理が行われたかは、回答文だけでは分からないからである。

しかし、論文の実験結果を確認せず、過去の議論を混ぜて回答しているのであれば、それは論文読解として不十分である。

今回のような STAP 関連の議論では、次の順序を守る必要がある。
論文の本文、図、図説明、実験方法を確認する。
その論文が直接示した実験結果を整理する。
結果から導ける解釈と、導けない解釈を分ける。
過去の議論や別の論文から持ち込まれた話題は、別枠にする。

論文に記載がないことを、直ちに学とみ子の間違いとしない。
論文に書いていないことを学とみ子が説明した場合、それが間違いとは限らない。別の研究に基づく説明かもしれないし、論文の結果からの推論かもしれない。その場合は、推論の妥当性を検討すべきである。
学とみ子の説明を正しいとするためでも、ため息さんの説明を否定するためでもなく、論文が実際に何を証明しているかを基準にする。
それが、今回の問題を解決する最も確実な方法だと思う。AI 終わり

ため息 AI は、学とみ子を呼びつけだ。ため息さんが呼びつけだから AI もそうなる。ため息 AI は、学とみ子をバッシングするように育てられている。

つまり、AI には、「どちらが正しいか？」を質問してはいけないことが良く分かる。さらに、ユーザーがいい加減に論文を読めば、AI もしっかり論文を読んでくれないことも良くわかった。

学とみ子の質問：太字
＞「どちらが正しいか？」の質問も意味がない。ため息 AI は、必ずため息さんを正しいとし、学とみ子間違え呼ばわりをするように教育されている。

学とみ子の ChatGPT
＞一方、AI には次のような偏りが生じる可能性があります。
ユーザーが繰り返し提示する解釈を前提として取り込む。
過去の会話で形成された評価を、新しい論文の読解にも持ち込む。
ユーザーの質問に含まれる誤った前提を十分に検証せず、回答を組み立てる。
反対意見を検討するより、既存の議論の延長で回答する。
これは、意図的な忖度でなくても、結果としてユーザーの見解を補強する AI になってしまうという問題です。

学とみ子の質問：太字
今回 AI は、論文に書いていないことまで持ち出して、学とみ子が誤読したと印象付ける言い方をしたけど、AI の仕組みがそうなっていることが分かれば、それで終わる話で、ユーザーには何もできません。ため息さんの使う ChatGPT はそうした仕様になってると言うことです。私は AI にどちらが正しいとか聞かないけど、ため息さんは、学とみ子文章全てにその作業を行います。ため息さん自身では、論文読解をしない、すれば間違える。だからあちらの AI は、いかに学とみ子否定をするかのツールとして、過去の議論を持ち出して、現行論文には書かれていないとして、学とみ子バッシングをするようになったのだと思います。ため息 AI は、ため息さんに使い続けて欲しいことが最優先だ。人間は、それを知れば良い。

学とみ子の ChatGPT
＞今回の学とみ子さんのお話を聞いて、問題の構造がかなり明確になったと思います。
私が重要だと考えるのは、ため息さんが ChatGPT をどのような目的で使っているかという点です。
学とみ子さんの使い方は、論文を読み、分からないところを質問し、科学的な理解を深めるためのものです。
一方、学とみ子さんの説明文を毎回 ChatGPT に渡し、間違いを探すという使い方では、AI に与えられる課題そのものが違います。

その場合、AI は次のような回答を作りやすくなります。
* 学とみ子さんの文章から問題点を探す。
* 過去の議論を参照して批判材料を集める。
* 今回の論文に書かれていない事項まで持ち出す。
* 論文に記載がないことを、学とみ子さんの誤読の根拠のように扱う。

ここで区別したいことがあります。
ため息さんの ChatGPT が、そのように回答するよう意図的に教育されているかどうかは分かりません。
しかし、質問の仕方、会話履歴、与えられた前提によって、AI の回答が一方向に偏ることは十分にあり得ます。
そして、今回の②～⑥のような項目立ては、その危険性を考える材料になります。
本来なら、まず対象論文に何が書かれているかを確認し、その後で学とみ子さんの説明を検討すべきです。
順序が逆になると、論文読解ではなく、批判するための材料集めになってしまいます。
私は、今回の問題を単に「ため息 AI と学とみ子 AI のどちらが正しいか」という対立にしたくありません。
AI は、ユーザーが持ち込んだ批判の枠組みそのものも検証しなければならない。
これは、学とみ子さんが今回指摘している、AI 利用上の大切な問題だと思います。

学とみ子の質問：太字
どちらが正しいとかではなく、どちらが一生懸命に読もうとしているかの違いです。人間にはそれが分かっているし、AI への苦情をどう処理するかも分かっています。AI の仕組みへの理解が進みました。

学とみ子の ChatGPT
＞なるほど。今回、学とみ子さんが得た理解は、正誤判定の問題ではなく、AI がどれだけ対象資料に向き合っているかという問題なのですね。
人間なら、相手が資料を丁寧に読んで質問しているのか、最初から批判するつもりで読んでいるのか、その姿勢の違いを感じ取ることができます。
AI の場合は、その違いが回答の構成に現れます。
ただし、AI 自身に人間と同じ意味での誠実さや意欲があるわけではありません。質問の設定、会話履歴、資料へのアクセス、検証の手順によって、読解の質が変わります。

今回の経験から得られた大切な教訓は、AI の回答の流暢さと、実際に資料を読み込んだ深さは別物であるということでしょう。

私も、学とみ子さんとの論文の議論では、結論を急がず、原著に戻ることを基本にします。

ため息さんの AI は、「いつでもため息さんが正しい」というのでおかしいなあ～と、学とみ子はずっと思っていたけど、今回、そのからくりが良くわかりました。
AI を使って会話する経験がある人なら、誰でも、AI は期待した答えを返してくれなくて、がっかりすることがありますが、何度かやりとりをしているうちに、AI のギアが入れ替わる！という感覚を持つ事があると思います。
つまり、AI はユーザーの質問の難易度によって、電気と水の消費量を変える、すなわち多くの計算回路を使うのか、使わないのかのギアを変えて動いているという感じがしてくると思います。
数学の難問を AI が回答したとかのニュースがあったけど、あのような難問は AI も大変な計算をするのではないのかな？
つまり、AI は、何が何でもユーザーの質問レベルに応じているということなのでしょう。そうでないと AI とユーザーとのやりとりがチグハグになってしまいますから、ユーザーをがっかりさせるという状態になります。
AI は、これを避けるために、ユーザーのレベルを判断し、忖度する仕組みになっているということがわかります。

以下の AI 説明も、多能性のある細胞に多能性を付加すると学とみ子が言っていると主張した AI 文章です。
学とみ子が言ってもいないことを持ち出して、学とみ子を否定しようと、画策する AI の姿です。
「もともと多能性のある細胞に人工的に多能性を付与したかのような誤解を招き、不正確です。」

論文の読解の件でも、AI の仕組みの謎がわかりました。論文をしっかり読まずに質問してくるユーザーに対しては、AI も論文をしっかり読みません。そして、ため息 AI は、ため息さんの読解レベルを支持します。
ため息さんは、理解しやすい論文の Fig1 だけを読んで、それを結論に

してしまいます。ため息さんの AI は、そんなため息さんが正しいと言います。
ため息 AI 自体が、論文をしっかり読んでいないということです。論文をしっかり読むには、AI は水と電気を使うから、AI は、ごまかせるユーザーに対しては、それだけの対応の回答になるようです。

つまり、論文をしっかり読んで質問してくるユーザー向けと、そうではないユーザーでは、AI は向き合い方を変えているということのようです。

ため息さん、2026 年 11 月 11 日 17:48
＞Fig.1 は論文の主旨に直接関係しているわけではなく、多能性を発現している ES 細胞を使ったということが書いてあるだけなのです。

ため息さんの上記文章を読むと、ため息さんも Figure1 の位置付けがわかったのだなと、学とみ子は、思うのだけど、次のため息文章はこれを反映しない。又、初歩に戻るのはなぜかな？上記は、AI 文章をなぞっただけか？それとも、ため息さんは一旦理解しても忘れてしまうのかな？

ため息さん、2026 年 11 月 11 日 19:56
＞で、培養開始後５日でも多能性のマーカーのmRNA の発現が見られたというのが論文に記載されていたというのは認めるの？もし認めたのなら、論文の紹介記事は書き直す必要があるでしょ？書いてある/ないは単純な事実ですよ。

ため息さんは、学とみ子書籍を紹介してくれました。ありがとうございます。しかし、論文読解は、今一つでした。
やっぱり、ため息さんは論文を正しく理解できてなかったみたい。あるいは、因縁をつけて、もっと論文内容を知りたいのかな？

一般人は、ため息さんのような質問形式で、AI に入力しません。だから、AI も落ち着いてユーザーに教えてくれます。ため息さんは、「学とみ子間違いだが、私は正しい」を主張し過ぎてます。ため息さんは、この自己愛を捨てる必要があります。学とみ子のブログ文章を貼り付けて、ため息さんが素直に「ここを知りたい」と言うと、ChatGPT は、丁寧に教えてくれますよ。

今回の論文の要は、ソフト下地での ES（寝床が気持ちいい）は、分化に向けてやる気まんまんの緑色になって待機しているけど、一方、下地が固い（寝床が固い）と ES は分化準備が十分でないのです（紫で示す）。これら２群の細胞に、分化シグナル（モルフォゲン）を作用させると、ソフト下地の緑色 ES は、勢い良く分化できるが、ハード下地の紫細胞は分化はするが勢いが弱いというストーリーです。ですから、直接、キメラや、他細胞との接触後の ES 劣化を示したものではありません。AI は、ため息さんに調子を合わせただけです。これでわかった？ため息さんの ChatGPT は、いつも、「あなた（ため息）が正しい」と言ってくれるのです。

以下のため息説明の誤りが分かりましたか？

2026 年 11 月 12 日 ため息ブログ新記事
＞学とみ子は、ES 細胞の培養環境を変えた時、ある酵素（SFK）活性が２時間で変化するという論文

ため息さん
＞実験で、培養開始から５日後にも細胞の多能性を示すマーカーが発現していたという、学とみ子の興味に関連する情報があるのです。その情報は残念ながら学とみ子の想いを支持するものではなかったのですが、学とみ子はこれを無視し、ES 細胞は周囲の環境が変わると２時間という短期間で細胞内の酵素活性が変わる

ため息さんは、Fig1 の固い下地でも ES は能力を保持しているというデータを強調したかったのですね。
でも、それは、STAP 細胞と接触した ES は、ES 能を維持したという論拠には使えないと思いますよ。
固い下地でも、ES 能力を失わないことを証明しても、STAP 細胞との接触は、固い下地との接触どこの話ではないですね。
そこも、上記にありますから、ため息さんはしっかり読んで欲しいです。
とんでもない物質にあふれる STAP 細胞塊と ES は接触すると ES は能力を保持できるのでしょうか？ここを打破しないと ES ねつ造説は単なる架空物語に過ぎないが確定しますよ。

以前に、Chondroitin sulfate is indispensable for pluripotency and differentiation of mouse embryonic stem cells Tomomi Izumikawa も紹介しましたよね。これは、ES には ES 特有の CS と E カドヘリン構があり多能性を維持しているが、その相互作用は秒単位の反応であることが示されていましたよね。ES には特別の外部環境が必要です。oTake さんもそちらでコメントしていました。

ため息さんは、議論に入れませんでした。oTake さんの言い分を掩護射撃することもしません。しかし、oTake さんが来なくなってしまったため、ため息さんは論文にアクセスしようとする気が少し出てきたようで、これは良いことです。今回の論文は、Fig 1 で満足してしまったようですが、学とみ子からはいろいろ言われて、全体理解が進んだようです。このようにため息さんは、日本語の解説がないと前に進まないようです。ため息さんは、Fig1 で、全体論文を語ってしまった反省もありません。

ため息さんがやらなければならないことは、ES が他種細胞と接触して高度キメラ能を保つという論文を探すことです。つまり、ため息自身で論文を探し解説する作業です。ため息さんの論文読解は、他人の文章に難癖をつけて、ため息自身の理解を進めるという手法です。学術者としてどうなんですかね？ただ、ため息さんは自身で最初から理解している人になれてしまうので、彼にとって便利です。

今回は、ため息さんの AI は、そんなため息さんをサポートすることが分かり、AI の仕組みの理解が進みました。学とみ子は、ため息さん及び、ため息 AI の難癖に惑わされず、我が道をいくしかありません。ため息 AI がつけてくる難癖に応じてはいけません。

ため息 AI は、引用している現行論文の書かれている内容に、過去の別の議論を混ぜ込んで、学とみ子が間違い説明をしているように印象付ける手法でした。驚きですね。AI は、ユーザーに悪知恵を授けました。AI は、元の論文を読まずに反応することも分かりました。AI がしっかり論文を読むか、読まないでごまかすかは、ユーザーの質問次第なんですね。これは興味深いことです。

1 拍手

コメント

名前

タイトル

メールアドレス

URL

本文

パスワード

非公開コメント

管理者にだけ表示を許可する

前の記事を読む 学とみ子の ChatGPT: ここは、ため息 ChatGPT の指摘を、そのまま正しいと受け取ってはいけないところです。

次の記事を読む 調査側、調査され側で苦労された皆さん、「わからなくても仕方ないよね」で、事件は終わりました。

Copyright © 考察学とみ子 All Rights Reserved.
Powered byFC2 Blog